

新年あけましておめでとうございます。今年は難しい年かと存じますが、夢と希望を捨てる事無く、共に生きる年でありたいと願っております。(中略)

1955年に高度成長が始まり、安定成長期を経て1990年からデフレ低成長時代に入り20年が経ちました。政治の不安定が次の成長戦略を描けなかったのであります。

堺屋太一は「勝負の時は2011年」先見性と自らを信じ、勇気ある決断をする者には「おもしろい時代」となり、無気力な他力本願な者にとっては「厭な世の中」となると説いております。

NHKが大河ドラマ「竜馬伝」や「坂の上の雲」を取り上げた事は、維新の教えを現代に伝えたかったからと思っております。

しかし、「少子高齢化社会、無縁社会」はかつての日本では想像もつかない世界であり、現代の政治経済界は避けて通れない課題であって、この解決によって、国や地方の次の方向が決まると言われます。

戦後、豊かになれば幸せになると信じて頑張ってきたものは、空しい少子高齢化社会、無縁社会の到来であります。

「群れを作り、助け合い、分かち合って共に生きる幸せ…」の価値観を取り戻す時であります。

少子高齢化社会では、世代交代より後継者育成が先であります。

若すぎる定年、経験や旺盛な勤労意欲はもっと活用すべきであり、高齢者の働き易い地域産業への育成が地方都市再生への戦略だと思えます。

老いは、すべての人間の宿命ですから、常に若く、美しく最後まで誇りと楽しみがあるまちに余生を託したいからであります。

今年もまた皆さんと一緒に努力して参りたいと存じます。

今後一層のご支援をお願い申し上げ、皆様方にとってより良き年でありますよう祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。